

法政大学第3回 FD フォーラム

「学生・職員・教員による FD 改善とは」に参加して

2009年12月12日

学務部教学企画課

太田有香

前回参加した10月10日のFDシンポジウムでは、本学を含め他大学の教員の視点から、FD活動の取り組みとは、まず自校でどのようなことが行われているかを確認するところから始まるということを知った。それ以後、私自身FD活動とは何かを意識してきたが、他者では実際どのような取り組みを行っているのか知りたいと思い、今回12月12日のFDフォーラムに参加させていただいた。

第一部では、他大学の取り組みとして立命館大学、岡山大学の教員・学生それぞれの方からの発表があった。

立命館大学の木野茂教授の講演では、授業を効果的に行えるかは、教員と学生が授業中いかにしてコミュニケーションをとるか、また、学生自らが主体的に授業に参画していると実感できるかによるとのことであった。そのため、ディベートを行うなど、学生自らが「参加している」と感じられる一方通行でない授業を行っているようだ。また、FD活動についても、学びの当事者である学生が主体的に参加してこそ活性化されると考え、立命館大学におけるFD活動の正式な定義文で「学生の参画を得て行われる」ということを定めた。それ以後、学生が中心となり他大学との交流、ホームページの更新を行い、自校の取り組みを他大学にも知ってもらおうと積極的に取り組んでいるという。

岡山大学の橋本勝教授により、学生発案授業を中心に、それを支える中核的組織である学生・教職員教育改善委員会についての講演も行われた。学生が発案したことを正式な授業として開講するという学生発案授業は、発案する側の学生が最低限もっておかなければならない意識や、授業を支えていく学生・教職員教育改善委員会のような組織が確立されているために成り立つ。一方で、「やる気のある学生が学生の全てではないため、やる気のない学生をどのように巻き込んでいくか」という点まで考慮し、学生・教職員教育改善委員会の構成メンバーは、必ずしもやる気のある学生ばかりではないということ、大変印象深かった。

第二部では、本学の職員、教員、学生それぞれによるFD活動の事例紹介が行われた。スポーツ健康学部では、FD活動＝授業改善と捉えられがちであるが、決してそれだけが学生の満足度につながるわけではないため、FD活動＝学生の満足度を上げることと捉え、アンケート結果の公開、授業見学ウィークの実施、専門知識習得度テストなど様々な取り組みに励んでいることを聞いた。私は職員として、教学面の改革、情報収集などを行っているが、普段直接学生と顔を合わす機会は少ないため、「学生のため」ということを忘れがちである。しかし、どのような業務であっても最終的には学生の満足度を高めることにつながる

るということを意識しながら行うことは、大変重要であると痛感した。

学生からは、「授業アンケートを行った結果、授業が改善されるなど、変化が目に見えなければやる気は起きない。FD活動は義務なのでただ仕方なく行っているというのであれば、時間の無駄である」と大変核心を突いた発言があった。そこで、その学生は自らが主体となって行動しなければ何も変わらないという意識を持ち、授業改善にとどまらず、学部、大学の改善にまで発展させること、また皆で取り組めるよう仲間への周知に奮闘していた。このような意志を持つ学生が増えるよう、まずは教職員自らがFD活動に取り組み、また、学生と意見交換、共有化できる場が必要であると感じた。

今回のFDフォーラムで大変多くのことを習得した。特に立命館大学、岡山大学ともに本学よりもFD活動に取り組む体制が全学的に確固としており、その構築方法、運営方法ともに学ぶ点が多かった。一方で本学の教員、職員、学生も、それぞれはFDに強い関心を抱いていることが分かった。よって今後の課題は、FDに興味のない人に関心を寄せてもらい、いかに全学的にFD活動を広めていくか、また、個々人のFDに対する意識を高め、いかに協力してFD活動に取り組むかであると思う。

また改めてFDとはどのようにしたら学生たちが学びやすい場となるか、満足できるのかを考え、そのために必要なことを実際の行動に移していくことであると感じた。それぞれの大学が互いに切磋琢磨していけるような機会がこれから更に増えることを期待し、また、そのような機会に今後も積極的に参加していきたいと思う。最後に、参加して終わりではなく、この講演で聞かせていただいたことを忘れずに心に留め、これからも日々の業務に励みたい。

以上